

# 「二人のしもべ」

～あなたはどちらの道に生きていますか？～

第2列王記5：9-27

## ■ わたしに祈れ

決断が人生を大きく変えていきます。多くの人は問題があっても向き合うことができず、時間がたつて忘れ去り、解決もされず、それによって新たな価値観を見出していきます。神様はその起きたことを叱責するのではなく、そのことを通して私たちに考える機会を与えます。心が騒ぐ、煩わしさを「祈り」を通して取り除く事ができるのです。「祈り」は私たちにとって自らの心を変える大きな力になります。最近の研究で「祈りによって得られる効果」という研究が行われ、祈り始めると体内でアドレナリンやノルアドレナリンがペーターエンドルフィンやドーパミンによって駆逐され、さらにオキシトシンが出てきて、人の心に赦せる力が与えられてくるそうです。もし、私たちの心が不安や疑いで騒いでいるとき、「わたしに祈れ」と神様がなぜ言うかという、あなたの心がまず平安になるためののです。子どもが泣いてきて、その子を抱きしめて慰めて、その後、もうしちやだめだよ。今度はこうするんだよ。これが、神様のアドバイスなのです。

## ■ 二人のしもべ II列王記5：9-27

今回はナアマン將軍やエリシャに目を向けるのではなく、今日、目を向けたのは二人のしもべについてです。ナアマンのしもべとエリシャの使いゲハジです。エリシャがナアマン將軍に使いをやつて、ツァラトに侵されたナアマンに7たびヨルダン川に身を浸しなさい。と言われナアマンは頑なになりました。私たちも人生で問題が起きた時に、また、自分の思うようにならなかった時に、このような現状が起きます。私たちはそれぞれ人生の問題を抱えています。なぜこのような場所で何の問題もないかのように過ごしているのかといえば、私たちはその問題の中にあっても、祈りの中で訓練と自らに脱出の道も供えられ、解決され、そのことを通して、自らも相手も環境もすべてが時が来れば変えられると信じているのです。ゲハジという人が出てきます。この人はリーダーがダメと叫ぶことをやりました。ナアマンのしもべが出てきます。この人はたまき切られるかもしれないのに、その人のことを思って正しいことを伝えるに行きました。リーダーがダメだと言われてやる人と、そのリーダーが間違っただけで命をかけて変えようと努力した人の相対的な生き方がこの中に出てくるのです。イエス様はそのような正しいことができないしもべのような私たちに、神様は友として私の計画を伝えると言われます。クリスチャンは立ち上がってきた人たちです。聖書というのは絶えずこの相対的な違いが将来どうなるかを表しているのです。間違っただけで決断をした人と、正しい決断をしようとした人の違いです。正しいことを行つた一人の人によって、私たちが正しい決断ができる助けを得られる事ができるようになつたことが書かれています。ですから、今日の皆さんは正しい決断ができないような状況の中で、正しい決断ができるようにされているのです。「隣の人の背中に手を置いてください」その手のぬくもりを感じるでしょう。あなたのために祈り、十字架に架かってあなたの問題が良いように変えられるようにそれをした人がいることを忘れなさい。それが私たちの助けになるのです。その手のぬくもりを感じているあなたは、愛されて、あなたのために祈ってくれている人がいて、その人はまたあなたの手を必要としていることに気付くのです。人生はその相互的作用によって変えられていきます。ところが、大きな問題は、そういうことがわかっていても、「従わない決断」をさせようという環境があることなのです。ナアマンはそのブライドを捨てて、部下が伝えてきた真剣な言葉を聞こうとしました。このことによって奇跡が起きました。あなたならば従えますか？誰かからアドバイスを受けたとき、ここでしなければならぬことは何でしょうか。「止まってみること」なのです。クリスチャンにとって大事なことはそこで進んでいた道一度止めるということなのです。止める理由は「祈るため」です。

## ■ 耳を傾ける行為と聞き従う行為は別 Iサムエル15：21-31

サウル王がサムエルから厳しい叱責を受ける場面です。

耳を傾ける行為と聞き従う行為は別なのです。サウルの目線は大事なのではなく隣の人の目線であったり人の気持ちであつて自分の立場であつて自分がどのような立場かということもいつも考えていたのでまっすぐな人生を歩めなくなつたのです。素直に謝れなくなり、謝つても自分の立場の為だったので言い訳、人のせいにしたのです。サウルの問題もゲハジの問題も同じダメだよと言われているのに「待てない」という人間の手法に頼る問題を抱えていたのです。目的とプロセスとなぜやるのかという3つが揃つてイエス様が前を歩いてくれて上手くいくのです。聖書で一番大事なことは「間違えたら素直に帰る」ということなのです。神様はこれをやりなさい。これをやったらうまくいくよ。と伝えているのです。しかし、聞こえておらず誰かを通して伝えていきます。そこで大切なことはその人の言葉を鵜呑みにするのではなく、何がベストなのかという土台に立ち返るということなのです。

## ①主を待ち望め！！

### 時は神のもの！！カイロス

チャンスを逃すときというのは従わないことで逃すのです。してはならないよと言われたことをやることで逃すのです。聖書は従うものと従わないものの記録なのです。「何のため」が絞られていないで決断するところなくならない。何か忠告があつた時には耳を傾ける時です。聞きにくいことこそ聞かなければなりません。それは耳を傾けることです。その後にはしなければならぬことがこれです。

## ②忠告に耳を傾け（ ）神様に 聞き従う！！頑なは罪！！

( )の中は己を捨て、怒りを捨て、不安を捨て、疑いを捨てなど、あなたの前に置かれている神様が喜ばれない感情をここにに入れてください。そして、最後にあなたが入ります。忠告は聞き従うための入口なのです。自分を捨てるのが大切なことです。頑固は罪！私たちは神様に素直な気持ちを持つことが大切なことです。

## ③幸せへの決断は感謝 地平線は 足元に！！満ち足りることを学ぶ

私たちは自論が多いです。自分の価値観で物事を判断してしまいます。今、私たちの教会に神様が伝えたいと思つていることは「祈りと御言葉です」。もう一度その価値観をそこに戻さなければなりません。正しいと思つていることを聖書に照らし合わせてみてください。頑なというのは人々につながらなくなってしまいます。今主がせよと言われていていないことはないか。してはならないと言われているのにしてしまつたことはないか。相手のことを気遣うとか、相手のことを思つてとかそういう問題ではありません。私たちは今、時間に生きてるので時間で物事を判断してしまいます。今やらなきゃ。急がなきゃ。しかし神の時はそうではありません。その時が満ちていないと種を播いても実りません。

## 私たちがしなければならぬことは礼拝です。

もし置かれた環境で問題があるとすれば、それはあなたがそこに行くチャンスです。しかし、主がせよと言われたことだけを行ってください。誰かに忠告を受けたのならまずそこに耳を傾けて、主がどういわれるか聞いてください。主は、行けともいわれるし、行くなとも言われます。その答えはいつも最善です。主が行けと言われるのに行かないのは問題であり恵みを失ふことです。主が行くなと言われるのに行くことは破壊と破滅をもたらします。良くなることを壊すだけです。ですから私たちがしなければならぬことは礼拝です。神様の前にただ出て何もせずただ祈るのです。そして祈る中であなたの心が癒されていきます。これは医学的にも証明された事実です。神様はあなたの心と体を守ると言われました。ですから心を癒される神様はあなたの体も癒します。ですから、神様に祈ってください。そして、聖書を開いてください。あなたの祈りを一方通行にしないでください。神の答えを聞いて下さい。神様の答え以外で決断をしないで下さい。私たちが祈れば必ず解決されます。

(要約者：澤口 建樹)

(8月13日)